

# 1000年に一度の大津波を想定した 吉田町津波ハザードマップ

平成23年11月作成  
平成27年 3月修正

## 1000年に一度の大津波とは

駿河トラフから南海トラフでは、ほぼ100年間で地震と、それに伴う津波が発生しています。その中で1707年宝永津波、1854年安政東南海津波、1944年昭和東南海津波では駿河湾内で10mを超える津波記録はありません。これに対し1498年明応地震による津波は、西伊豆で10mを超える津波痕跡が複数見られ、先に挙げた3つの津波よりも明らかに大きな津波です。ここでは、今般の東日本大震災による津波が貞観地震以来約1000年を隔てて起きた巨大津波であることに対応させ、1498年明応地震による津波を「1000年に一度の大津波」と表現しました。

## 津波避難施設一覧

地区	名称	住所	土地の標高(m)
住吉	津波避難タワー A	住吉 4403-6 地先	1.9
	津波避難タワー B	住吉 3254-6 地先	3.0
	津波避難タワー C	住吉 4805-2 地先	3.0
	津波避難タワー D	住吉 3484-1	3.2
	津波避難タワー E	住吉 5228-1	2.8
	津波避難タワー F	住吉 3719-1 地先	3.5
	津波避難タワー J	住吉 3365-1	3.4
	津波避難タワー K	住吉 2868-3 地先	3.1
	津波避難タワー L	住吉 5525-1 地先	2.8
	津波避難タワー P	住吉 2649-2	3.3
住吉小学校 <sup>(注1)</sup>	住吉 2223	3.4	
津波避難タワー R	住吉 2143-1	3.5	
ホテルプレストンYOSHIDA <sup>(注3)</sup>	住吉 580	4.2	
川尻	津波避難タワー G	川尻 2557-11	3.8
	津波避難タワー H	川尻 2918	3.2
	レック岡吉田防災倉庫 <sup>(注1)</sup>	川尻 3308	2.3
	川尻会館 <sup>(注2)</sup>	川尻 1623	3.3
津波避難タワー O	川尻 2743-1	3.0	
片岡	津波避難タワー M	片岡 1697-1	3.2

(注1): 避難場所は、屋上となる。  
(注2): 避難場所は、2階及び屋上となる。  
(注3): 避難場所は、脱衣場、廊下、非常階段及び屋上となる。

## 津波の特徴



●津波は繰り返し襲ってきます。必ずしも第一波が最大とは限りません。少なくとも12時間以上は警戒が必要です。

●水深が浅くなるほど、津波の高さは高くなります。また、V字型の湾では急激に高くなります。



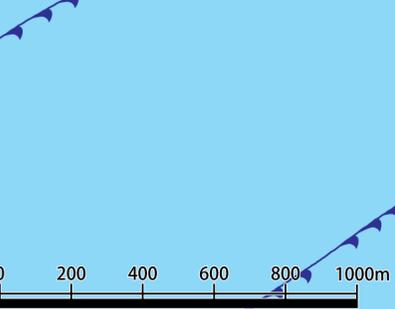
## 津波到達時間とは

地震発生から、津波による浸水深が50cmに達するまでの時間を表しています。

地震発生 10分後



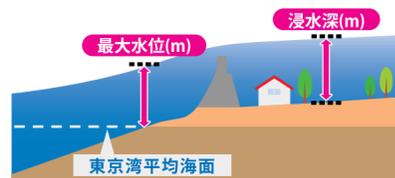
6分後 第一波到達  
5分後 第一波到達  
4分後 第一波到達



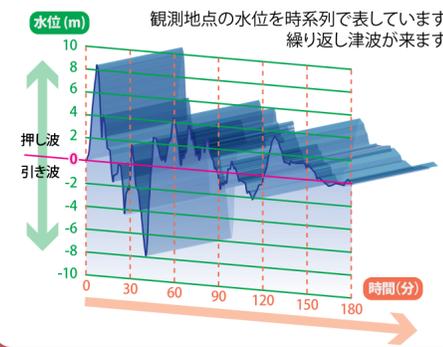
1:14000 (A2判出力時縮尺)

## 津波の高さに関する表示方法

最大水位は、各地点周辺の海面からの津波の高さです。浸水深は、各地の地表面からの水面の高さです。



## 水位変化時系列グラフ (津波の到達時間と高さ)



地震発生 20分後

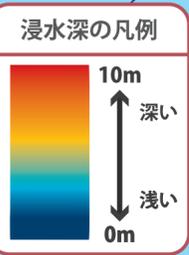
地震発生 10分後

### 土砂災害の凡例

- 急傾斜地崩壊危険区域
- 急傾斜地崩壊危険箇所

### 津波に関する凡例

- 避難場所 (数字は標高[m])
- 津波避難ビル (数字は標高[m])
- 津波避難場所 (数字は標高[m])
- 2.7 標高点[m]
- ▲ 7.7 津波到達高[m]
- 静岡県第4次地震被害想定 想定津波到達ライン
- 第一波到達時間
- 津波到達時間
- 水位変化観測地点
- 屋外子局



### 地図の凡例

- 吉田町役場
- 高速道路
- 150 国道
- 31 県道
- 主要道路

第一波到達時間とは  
地震発生から、津波により海面が20cm上昇するまでの時間を表しています。

明応地震(1498年)ではここまで津波が到達したという言い伝えがあります。

静岡県第4次地震被害想定 想定津波到達ライン